飛騨書付

特別
へ9
2244

高天寫目録

序
高天営之事
面八句
洛陽祇作次第不同
如泉　我黒　似船　芳山
好春　只九　晩山　微士
鞭石　定之　雲叢　滴水
言水　附り鈴句　祇風涼判
難波　祇作次第不同
由平　這舟　一礼　来山
圖水　只有　交流　岸紫
釣水　才磨　風爲　天爺
豊流　西吟　万海　園女
一時軒
合拾七人

明治四十一年五月廿四日
冨山房紀念寄贈
2244

知里答俳諧入翁の意に月出て結果の
能より出る鬼の姿とそ侍りしまでハ四座乃
求より知る事にて世よこれ試作と次いづれのろ
よりを棟梁とさら次とりよ事ハ能潜も勢
列山田の原の荒木田の作徳を未乃世の能
作の求猪より受て京江戸大坂傳ハ勿論
其門才弥を〳〵草の〳〵蔦のごと〳〵蔓りく点者
鄙まで満〳〵とあるよ花多川の音
のことのさら〳〵や能作登りてけりくうの句
鉢家のべらっこ成ま前句附とりよす
と世よをてあそび蕉の翁草かる童まこと
とれとせをとりよ〳〵抑世前句附や
りよ京都より始りるやうにかくまでる
草紙あり全くさよハ何程〳〵表愚暗の男
あぐら若年のこ侍りより世乃よ執心のりく
世かうりハ知まりり星霜早二昔をるくぬ
らん寛延萬治年中に泉列場よ池海氏成之
とりよ好士有〳〵其江河列小山村よ日暮

氏とやらん重興と名乗る能書有〳〵世人
成之の前句を取初〳〵六句附とりよ事ハ
始らんくり四季の句よ戀あ〳〵を各々の句
ハ〳〵を加へて六句ハ拾銅ぐ集ヌ麿表美
とりよりを取〳〵巻物よして河及の祇友是
を楽〳〵り是で世乃家初なる予是と真
有事にハをひ同ク成之の前句を取て和列
の清書をしゆきり次よ和及下田村よ葦
葉としりよ作世乃なる有〳〵や京都二
条の伝高瀬氏梅盛公乃前句を初て取トル
六句付を仕次をくり其江いまる京都よさも
上巻之時節なるバ点の数さんやう服書潰よ
まで取次第計あ〳〵初仏成〳〵やきんより
て京を方返も江戸を諸國とを世乃盛
よ成りねもるふ中ニ侍りより盃弱みやうの
その褒美よわ〳〵初一句付二句付とし
あ諸人俳頭をのらをを〳〵を〳〵清書
満〳〵成〳〵の作意よ耳をよ侍とバむ

あるよ表飯出成やうしも巻を取哉ハ二三番
の上座をしめ家の事侍り是を志るしめたま
ふハ去人の語りて曰若ごろ難波土産梅の
花笠咲や木の花などて前句付入
妙句を書集せる草紙出来して是
を懐よして前句相應の句ともとせん
ぎしてけるをれいらるる点者衆も一杯
けるハすりける也塩香よけれバ二といひも三杯
もせろ人ありと語りぬれバそれハさもと可
有と気の付毎日来和及何及の添云
の書抜と竹端書留ゐるを元集て箕る
よ稀四千余句よ及で是を皆書おさん
もゐる人退屈なもとし且亦十番までの
句ハ作者の粉骨を尽しせる句成連
一清書よ五句七句拾句ずくを書抜其内
よも大歳の中ハすくれもの妙句在之とく
十五句二十句ずくも書列し凡一千五百余之
よ及で元禄九年丙子南呂上旬月揃

成就よ書続りて梓よ之げ鏤ヌ又ハ梅ノ
花笠咲や木の花よ対せるものなれバ
手ガ侭飛鳥の名を借りてる天鼓
と名付侍りぬ

和州郡山城下御所町
鶴壽軒良弘

高天鶯之事

高天鶯乃哥を詠し事謡よハ孝謙天皇の
ご治世よとありて孝謙天皇ハ人王四十六代之
る天傳記よ日ク　人王四十代天武天皇
の御宇白鳳元年庚辰二月上旬和州多
武の峯の開山定恵上人（大織冠ノ長子トアレド実ハ孝徳天王ノ王子也元亨釈書ニ委）
ある天寺よ詣て遍照の也の梅花を見まよ鶯
来掩して鳴声と字バ不思議の相ある定恵
文字よ写して見給よ初陽毎朝来不相還
本栖と鳴也と和しまへれバ○ある春の朝
ことよハすれどもわハでとものとも の梢よと云
三句也作者の中ども与鳥之且ハ名を借りし

三

題号の歌なれば今夜よもすがらねやをとぜず
寺よ啼営鳴よとぞれしり

散る一葉四ノ〳〵乃なかめ哉
威ハそまさる大海乃月
新酒の香汁殘る樽ゝ
なとゝ事なき貝ハ肥ゝり
積善乃因明よ当なか
赤鯛て泳ぐ白魚の形り
世空よ鳴る雲雀行笠
春ゆるなら碧んん千金

皆点之内　長四　淀下　如泉在判
弥二

鞭石

和列言曰清書

森ゝり海ハ又〳〵くれ
落飼て新なぐさひる雪乃庭　土庫　武因

新よ孝と平次道百行の第一とこそ
春乃春ゝり四季まんとこそ世言中
よ落と花し千年の友とゝさ
ひる情ず法乃奇かれ

御所　色信
高田　前仙
新左　柳雪
大坂　村門
御所　曹吟

みゝ乃塚よにゝ〳〵新乃物ねひ
掛なとせ氷のとけるし
冠脱き浮世せゝり山かゝ
配所にて雨よむを永空永
かれ世る涙とゆらハと秋の蛍

一溪
御所　色信
道猛　竜水
高田　前仙

京乃春藻と云鳥嶋よ
塩濱と移して乃ゝき庭乃面
春中ハやめ世き初瀬の鐘の音
春雨よ濕て悔まね都入り

同

河内久宝寺清書
よゝきよ面白き旅

[illegible]句の[illegible]平る[illegible]葉乃藤
夕良よ[illegible]　蚊屋乃新家
よ[illegible]捨しゑと桜よ人よ
うき世勤當せ次ハ不二乃雪
紫ほ[illegible]ハ夜ハ酒賣人なきう

同　和列坊城清書

是非よ[illegible]て戻りうそ[illegible]れ
誉まる人を家みれ[illegible]ほ[illegible]新
妹乃くせハ志ら[illegible]れ誉ら[illegible]く
世しこ[illegible]前絡ハ須[illegible]氣之
山寺に住ハ邪見元を並ぶ[illegible]
一療治世と人死をとを恨み

同　同　今井清書

物音近き奥乃二つ家
嵯峨ぶの人を迷ハ[illegible]　兵庫　万水

同　同　御所清書

松乃末計　村乃目[illegible]　下市　一唱
曽乃日やかぢ[illegible]を[illegible]火をもす

御幸乃日車返り　下市　菅紅葉
一時乃水湛[illegible]せ　山城　懐
世を渡る瀬ハあ[illegible]ら[illegible]川渡　兵庫　正水
鬼の火よ肝をひそ[illegible]る細代さ　紀州　焼鳴
花ハわ[illegible]とむか[illegible]答次語られぞ　全　翠蓬
石佛　形りハ太[illegible]も　痩を勢次　全
古國よ鬼されく　脱く鴻衣　山州　全
物いら[illegible]ときふ　石住とけ　同　寸知
[illegible]紙きれく姉乃世呼一つ楢　同　正水
米年を経ても救よ[illegible]鴻庚　同　亀淡
草に爰覚れハりせ乃永独　全
地の庵梧桐乃[illegible]そ　憂世男　同　不和

同　同三室村清書

人乃物よ[illegible]　山州　焼鳴
世乃業乃身よ[illegible]ら[illegible]　馬の飼　同　竜梅
加持されど枕をの[illegible]ね　古狐　林堂　元近
若水をふ[illegible]ま　汲[illegible]ら[illegible]
若ふを[illegible]らぬさきに汲て来し

門葵や雑賀ハくやく賜ひく　四宮　一光

難産やれ[illegible]を思ハ罪なり　三宮　[illegible]

色脱て白粥をくる油えゆる　佐和　不拔

同　同三室村清書

嬉しの半分出しいまら

仰の束期秘もる傳文を残なく

色をきの江君の姫よ恵らまて

父乃喪ニ蛍を中やらぬ夕ま暮

走り舟磯乃梶ニ吹ニ殆て

逢えくれみしを名乗ゝ墨衣

尾添しさに深物て居

御所　不和

中久保　春山

仰西　安計

名柄　菖山

圓九

仰乃去うなくハ姫ま[illegible]

舟かる敷を竈と茶を焼を

同　同仰所町清書

土器計残ふの明

さいれ神うし仰さびしき樗示

佛しる君ら竈化ス敗をちら灰

佛喰ハ蔦の歯ハ血乃付世

盆　友

名柄　菖山

仰西　帛松

今井　悰外

名柄　菖山

夕良仰ゝ世ゝ蛆乃一つ来

釈迦乃仰法を未示永朝　仰所　亀流　菖城　高松軒

同　同今井清書五十番之接書

松まで八書尽せ世を尻乃形り　五井　松音

今れ妻ニ朝精進を忘られ　今井　老泉

子ハ子ハ殊数さへ見れハ[illegible]　今里　玉水

永君れ謎乃仕掛乃悪からく　細井戸　栄孝

死ハか仰し死ねて武勇乃り　池尻　松盛

傾城ニ泣もる上手　法上手　今井　矢角

免されて獄屋へ入を妻れ文　宇陀　短舌

拙言文を立てを所のる永文　大坂　永山

蝿おて書ハ美をなり眠り　坊城　正沢

古郷を見る向らく嵯作ア　邪川　聖達

墨染の歩ニ虫乃息絶く　伊賀名限　一仏

物書し久羽ハ消ゝ尺ゝ　今井　秋也

神ねて姫ハ良ニ血を上げて　同　斑牛

春分五十ニ酒十色

同　同名捌村清書

造立して南ハ炎
月死乃方へ永死のまのなせ　　クレラ　天九
同　かうき物とハ今いの色
松の枝の枯てをとこぞ残りゝる　　ナカウ　葛山
葬を垣ゝ這せてう平〳〵てる　　著尾
永ゝ焼とれもハで欲ゝ高家　　捌本　吉定
貯て金を死まれバ石毛　　林堂　炎丹
　　救

同　河刃國分清書

速ゝいらゝよ〳〵
持とて日傘ハ乗ゝ役ゝまぞ　　曲川　翠迷
僧ク少ハ布施ゝまてうまとでる　　河刃　嘉軒
門前水力ゝまれど炎くゝまん　　同　久内
朝脈ゝ生死乃二つ取ゝあん　　乃徒　竜水
蓮乃香の酒ゝ移るも朝の中　　河刃　岩船
ゝ釣瓶ゝ大村ゝ井戸一〳〵　　立隠　玄柄
同　炎道ハ物ゝあるゝ
隠ゝれ〳〵ゝ夫ハ酒ゝ家入ゝり　　平石　敏実

さゝるかゝハ半坐ゝ恥ゝん　　同分　石
非人かゝ炎ハ花見乃酔倒ゝ　　林堂　義勇

同　今井清書　五十番拔書

京ゝ廣さハ半ゝゝるゝを　　同　蘭堂
同〳〵ゝ生ゝ半ゝるゝを　　同　好月
夕立ゝ裾かゝ半ゝる女ゝ　　名栖　葛山
子ゝ中ゝ家さゝて二人ゝ物語　　同　石鹿
ハゝ立ゝて宮乃鉄箱音〳〵ゝて　　内山　九水
七墓乃硬乃ゝ人欲ゝゝき　　各持　一水
賣初乃棺を祝ゝ炎のゝる〳〵　　拔塚　九角
同　何をのゝれハ扣ノ門口　　同　石鹿
海道ゝゝら孫ゝゝを半ゝ島の客　　クレラ　秋夕
名月や男に似せて泥ゝ　　九品寺　富竜
盗ゝゝる梅ゝ自佛ゝゝ　　宇良　寸鬼
長旅のゝれを妹ゝ　　ヘイキ　止牛
ゝ炎きれ庶ゝい道ゝゝ須戸乃聖　　細井戸　一水
れゝのゝゝ佛ゝれゝなゝん
ゝゝゝゝ懐ゝゝる産乃伽

長手にうぐいすかひさる茶食　・夏陳

同　宇陀清書

いくしとらも又恋ひ
嬉しうや連て退氣のない男
當疫氣よ誉て云へ人ゑ涙
酒のわさとれハ中とうる妻乃俳
物淋乃若衣を蠅うせてきり
子の新う都遍ひてうき世う
傾城と有時ハ夜ゑ別よ去て
別まての跡ハ気まゝよ鳴鳥
嵩形とハ男よ入てうく女
花ゑ乃花わ若衣捕まへく
進むとと法花の孫粒と切ぬ書

河孫　元吉
今井　鬼氏
色生　石康
同　土九
祐久
林堂　一茶
河孫　信内
今井　宗久
色生　天立
月　蘭口

同

待退風ゑ事でそれ
吟　壱よ勤そハ松う船頭う
数乃内残られハ世そ切そくさ
入揚て昼食そう涙しまり

河孫　鬼
月　王
月　呂吟

雪の夜よ二人くハ鬼の貫れを
そう雪を三日乃中ハ賭はて
琴ハ緒ハ男なうてハきられを
通うちよ足袋次ハ一人うふて
隻よ立つとれとハ酒の香を悪
関ゑりよ拝を包てゐる一月
世乃中乃悪女やくれ夫持て

月　君
月　虫牛
ト枝　仕地
林堂　一茶
河孫　玉
曲川
日号　刃平庭
一赤

同　同和列倶广羅村清書

元のやうよハゑらぬものう
髪くせを付て枕のうらめうき
髪切てゐるわくハうさ他人ひさ
さび刀押てそれハ焼ゑ
夜乃立時ハ佛を乳をし

十八　西系
月　同
素　尾
秋夕

花ハくやハにうよ世きう
氣なくハ地ハ丸ハさらみ恥辱ハて
誰う池ハ雪よ角きる杜若
花の口ハ紅ハいひきよーの鳥
白えれハ難いてきハう病てよて

クレラ　川秋
名柄　葛山
官堂　酒水
大坂　吉世

船よさへ流れ出ぬ見乃別れ　大坂　河内

手枕を逆ろうしき笑ひ貝　同　萩尓

同　同今井清書

海と川とを間せきの

一方ハ衡乃如セしく城がまえ

一つ家ハ鄰乃背ハ柘植にて

奥ゑとる網を沖辺の火に焼　元品寺　冨龍軒

伽藍地や誰ゝ参詣乃橋　笛　今井　松尾

新麦をハまもれるこくゝ麦小牛　林堂　一茶

飛ぶとかり　木曽塚　虎口

天井川越るハ人に欲もなし　西辻　宗

法しさり牛に追ふ麦の中ゝ

句頭

結ひ目の帯余りきり　文表　河内

若草ハ半ば兼ねん馬の脚　上市　光

屠蘇ぬるとて舎まゝき乳房哉　細戸　刀勝

同　同山田村清書

由来有ゑき松一本ゆゑ　河内　梅好

蓮池の蓮ハ所地より破られ　高野　草麦

芝穿ち花ハ毛よりもちの文ま　百市　一笑

黄昏乃花より白ゝる古き絵　秋夕

他乃誘阿まの花より菅ゝて　丸野水

寄俳ゝ人よハ誘ひ旅乞食　河内　円水

同　同所清書

隣よハ未家ゆ壺のとる　高野　草麦

釣夜ゑとれとへハ涼き新の君　百市　一笑

送られて送り戻セハ秋乃月　秋夕

洗まるから仲のよいのゑまぬは　丸野水

灯をとけく母乃茅ゝ　河内　円水

見ぬるゝを根よ見ゑ孔ハて

若戒貴よ和ゝよまで祝ひゝ

同　同所清書

さゝくゝとて多ゝ書ゝ　堂　一茶

青ゝる男尺捨ゝをゝ来ゝて　水常

負尺ハ只ゝ中ゝしいゝ病よて　西示

堪忍し無ゝ忘をゝらぬゝど

紙及もなんの要よいひ孫て
世を利ハやてを永さの眠る内
花も実も有のまなるをいき
えしっ夜よ寝るのハ借き郭公
一こゑ〳〵あて〳〵を悪し妻乃良

同　同御所清書

何せやら物代廣き春空
髪のらじ独ハ掛えるやらし
和かよそりかて至や花乃園
まゝ都をて行程ハ賣る花
永孫らよ男掛よ祈花て
写物よ掛を乗せて永ハ歩

同　同所清書

夜の那ゑやらく恋の白きぞ
寄のゝよ女伝さん二伝ともゝ
身のけらと語らて世代魂祭る
いひさして拭せるよりとなるきり
万果ハ魅るき至を悔くせ

立川　野平達
宇所　春竜
島城　西礼
クニラ　秋メ
寺口　元明

今井　張抑
宇所　発詞
河内　丙水
今井　一眠子
土作　木ト

宇所　重梅
河内　一水
土作　猪子
夫草　万水

ゑハ不楽ゝそゝ聞碁をせをゆる

同　同所清書

独りゝひゝきやうな春雨
昨日乃日ハ西去せと珠数くゝて

今井　□○

大田　貞

（句也此点者の前句國分清書に有り）

失取出せれゞ萬切よ取やせくゝみ
迷ゝとゝら薙よ分うけ　蝙蝠　牛

宇所　随郷
手尾　忠次
西辻　宗好
宇所　亀流
不粒

行ゝ衣乃扇ハかゝ孫どゝ衣よて
壁紙よ張引の多書とゝん
都よて昨日ハ水茉今ハ磯茉

宇所　女房乃良
嶋原と扇まハ元乃気よ成て
長ゝさて加減乃茅まハ見かゝ

筑川　四平達
國分　丙水
宇所　水丸
不粒
日　亀流
日　随郷

朝貞よ病乃門ハ待てさけ
降る雪乃白さ感ゝて手に汲孫
貫ひ乳ハ足ハぬ物よ而の夜半
ゝその世よ何せよ至ン讓り肤

ノ百五拾句　前句貳拾四

し青乃星や咲めん雪ゝ不二　宮田尾　似舩

人乃ゆくもまゝに青ハ青ハ

滴水

和列坊城清書

同氏情乃世乃若松

夕煙り里乃持ち細かゝく　高田　前山

裾を帚く被ハ花の塵ゝのせて　金井　玄長

勤やる揮を袁乃明初ゝく　長長　隨衣

うき雲乃跡ゝ物ハ礫るて

絵筆ゝ涓新乃ゝ　由川　吹山

入日乃花藻くゝる　本家　星宝

父乃俳鎧　由川　艾髙

山ゝとゝゝ氏ゝ氷のふる　金井　月蓮

誰おゝ人ゝ燃ゝ樽機

血ゝゝゝ指ゝ色乃雨ゝく　由川　吹山

色ゝ初る色ハ紙ゝ色ゝ　金井　古竹

美かゝ道ゝ絶ゝ物ゝ　月　□○

ノ拾句前句三

京芳山　今南氏伯后

華表ゝ奥乃遠き明神

花ゝゝゝ祢ハ歩まめ女中方

禁足ゝ見抜ゝく拾ゝ病ゝく

男ゝ女ハ並ゝ気のふせき

雨ゝゝ日足ハ枝乃上ゝ

目ゝ乃ゝ門物れひ

注連ゝ門鍛冶ゝく

草肥て畳ゝ侃乃眠ゝ床

蔵ハ人ゝゝ人ゝ物食ゝ

人乗せゝ物食ゝ

ゝく春ハ眠ゝき淀ゝく

ノ拾句あ句三

淡今　御所町清書

ゝゝく降ゝる雪

同氏乃柳ゝき淀ゝ　高田　前仙

山寺のゝ庵ゝ換鉄枝さゝく　下市　言智

野原ゝゝゝて楽ゝむ酒の祝　内山　夏長

ゝき刹て春ゝ待ゝ

親乃有凡八貫ーさ張しさき　秋夕

雨ぐるさらけそ坊ち　椎松柳次　竹州 麗流

誰わらきなや　椎松柳次　蕩書　素一　上里一尺　呂久

せハーきけまよ殘ル　眠ふを弥宜乃覚ま　鰐口　水丸

走り船寸素せや　鉄炮

句題

とつ爰の気を調ん　年乃暮　三山 巒

君々ゐ鳧を突き　鰻代汁　仰州 竜春

メ拾句　あ句三

暮四

今井清書

西ゑ東ゑ走ねこ　正忘　今井

酔覚や花の香ゑかり　臘月　岩角

行ゑ〜なを色ゆき山さめ　岩戸 桂笑

冊送る椎ゑ呪乃吹して　地黄変　舐ふ捨子乃衣さよ　竹西 梅子

獲乃有内を金乃放ち船　今井 曽水

金のゆる彩室曲り〜筋塀て　仰州 不数

三日月ゑ吹まて奥津船　今井 祐正

雷や又呼ん　稲光り　台西

星蘭て旅坊妨嫌　村時乗

メ拾句　前句一

晩山点　林堂村清書

貫ひ〜物ハ返さ花せ次　戸毛 月枝

西午崇るまてこそ金なれ　禁堂 救

離別する中ゑ飛ん黄揚の猫　如水

老ゲ身のゐゑハ〜き小多竈　拙虫

同名ん忘忠猫〜孔ん〜　池内 梨ト

花嫁の貝ゑ儲ね　丙午

肩脱ハ女ん西作ゑ桃金　仰州 竜梅

ユクちゐ〜ゑひを姫ゑ　虫持　近種 竜水

庭ん籬を半しむ　綜張り　禁堂 救

扇打夜の隻を立る

メ八句　前句二

知石点　今井清書

激流ん　犯面ゆき呼海深

岩よあい世やさ次　小盃　今井　盧牛
石竈けぶる泉高く焼さビ　同　今
夫婦ぢまなる世二乃　汝汲　石川　一知
小船ぬをする漁父ゝ向　鍋　ホワイト　晩松
群れる鷺ぬ首をそらしきり　所　不救

次第くゝよむ伝けきを
氣の樂を世話し柔ぬ時ゲはし　今井　盧牛
木々乃猿笠ゝり上よ咲るよりまり　所　亀流
人亀の殆うを人の名付きり　同　今
今の気よ軟の黒ぬをよを洩し　今井　盧牛
兵法の所迄ハ夜ル を　茅　解次　細井戸　忠次

同　同所清書

行交時ハ庭つゝグよい
弃ひとり琴の研乃ゝ表なり　玄塚　虎日
水鏡そこいなきとて夫婦なれ　今里　賀角
あををゝぎゆとねをあき妻の白　内山　正紐
吳尼をる男を同ゝ色ゝとこ　細井戸　栄孝
持なゝゝ負ゝき金のゝり　今井　涼尼

老の氣を春ハうか承く山さゝ　今　鬼尼
世よ為て紙よ茂ぎるを取ゝ次　今　園尼
永妻ぬ障ゝ隔てあて言　蒙　今　祐正
ぜくてゝゝ夫のゝき名を忌計　蒙堂　流沙
雨所をハ教て置ゝ旅乃者　器　空知

メ二拾句　前句三

鞭石点　今市清書

松を松也浦を浦也
苦ハ拂ひ気をゝて拾ひ舎利　西辻　宗好
夕浪乃光り紅擅よかくやきて　木塚　九角
罪をくて任ハ塩炙乃斤ゝ　同　今
高砂乃翁ハ千代のかゝりにて　池尾　紐英
一方ハ千鳥乃姿せく城かゝ　クボ　一二

松泉　前句ノ勝句ハメ句ナリ

これハ尼次よハ歯まゝさて
歯ゝくと人壺ゝを屋　船　木塚　三捌
泉ゝハ底ゝ尼ぬ咲よ　長尾　一の
散ゝ一柳を　奥　拉　大田　友

やこそ遠く春乃日の礼　糸　来子

若あハ老の蔦葉よ文句歟もの

メ九句前句三

夜よ一夜　起て　蟋蟀哭　暑哉　定行

定行点　河刄出田清書

大根の行馬上りのゆしよよ　畑　一正

海の底　やゝ　峯乃　箒　火　皇木　治長

朝日乃　梅ら　も　松永の雨　治長

夕暮凄き野　駒谷　真

一蓮臺の穴ゝ　結よ　鉢　扣　下牧　正之

二所さゝて　枕ハ石乃　佛なり　月　麦舟

三心ゝ　女の鬼や　とら　れ　岩　亀流

四捨しよの　新　呼　やゝに　林堂　之近

五狼の　走よ　捨子を　抱　兵庫　乃水

六棟　焼　陽邨　鳥乃　青くて　前仙

七走よ　行道ハ　牛　流　見　行

同發句合一巻一ヨリ十迄抜書

牛　綱よ　起　郎　さ　ゝ　蔦　哉　白木　寸因

菴　近き　落　よ　ち　き　る　狐　月　治長

打　習へ　嫁　入　せ　ね　ま　に　夜　の　礎　月　拾林

浦　道　や　人　よ　ち　い　さ　き　人　乃　蛍　大井　雲八

小　夜　礎　服　を　ち　で　ま　ち　し　尼　ゞ　菴　白木　寸因

月　九　し　梅　乃　尖　ふ　松　ち　や　し　同　一舟

ひ　ち　る　子　よ　礎　乃　拍　よ　合　ま　り　月　一歩

嫉　妬　ま　る　事　や　詠　ち　え　ぬ　の　春　山崎　亀流

家　切　し　地　蔵　か　る　な　乾　藩　持尾　堂政

色　草　乃　ち　ま　ち　ま　ち　り　鳴　り　鶉

同　同所　清書

磯　松　の　間　ゝ　ゝ　よ　細　子　て　京　常夏

契　り　ク　鍬　ち　わ　け　ほ　の　く　永　山田　幽林

道　妨　乃　池　の　花　あ　ツ　草　肥　て　浅　よ　残　塔　乃　跡　堂　一葉

童　ア　と　て　乞　よ　繋　ゝ　亀　く　れ　毎　白木　夕因

松　啼　し　ほ　ま　な　き　さ　次　夜　乃　蝉

句題

男童や姿　置ノ子に有　敏実

同　同清書

第　捨置き淺かきの下
蕎の中に馬よわかわあ
永母よ凡知ね敵乃首ん
ぜん　作者　亀流

句題

木公虫よ作幸乃車中ゝ
横海し螺乃泳ゝく入江哉
朝尾毒よ蔦し油乃長
而乃月ハ心をゆるをゆるさ

同　同清書

入口ゝ色芭蕉成ル寺
海よ朝日乃大き成ル形
ゝとつき出ス入相の鐘
ゝる根よ二月乃月ハ除ゝ九水
九腰よゝれハ心乃角抑て　大伴　一亀
鳴原ハ雖低乃堺　梵堂　一京
律軍有ゝ添ゝ　拔水

永おさに用こびゝ
来有社夢よ曹立て
新乃枝枝よ永多乃悪去り
行人の押分ゝ賑さ　作者　亀流　南大伴　王女

句題

水細ゝ布流ゝ白乃ゝ散
散かゝてゝそれや拾ゝけゝ皇
花屑の動ゝやうゝ蝶の羽根　山田　清岸　月　万吉　梵堂　一葉

同　同所清書

青葉乃下ハ立ゝ退ゝ
若乃笠ゝちハうき世のゝ乃語
色かきり法よ命乃有捨み　大重　竹内
日盛ゝよ唖込ゝれゝ　山田
麦笠よ永戴ゝ身乃冥加　尖伴　名栖　苔山
讀声ハ兒とゝくゝてゝふゝ
盃よ吹込ゝ　泉　和孫子
道理よ流ゝ
良將ハ軍乃上よ軍乃

メ四拾七句　前句拾四

憶郷花　いよいよ五八　山桜　拾月堂　雲敷

閑居　宝ゝの永ど　松の尾　仝

　通らぬきせるをぬるゝ　仝

かゝ乃方朱鞘の刀えせうけて　仝

　睡月丸窓丸さ磨変て

窠てゐて火焼気侭也　仝

雲敷　私加下市清書

　夜ル〳〵毎の蚊ト喰ハう　竜門平尾

うかれ世をゑとハ新乃産さ　可三

　て尚世界休もこし〳〵云哲て

　交〳〵うてゐる句也

捨しゐ祈りゐるきら次通ひま　下市　吟也

已うなもて科ハ恨ね氣の僻し　不知

産して乃るゐの月のえへかゞを　蒙求　小雅

皺のべ〳〵筋　連〳〵巻返し　三室　立枕

逝よ慶　蛍よ已ゞ自ゝ　市所　亀流

れて生らゞ一隻産禅よ沙勤　月

呪わる蔵さ草根のうき枕　下市　季子春

　跡よ残ルハ上戸也乃ゐ　蛾子

花の幕入れと月もさ　林堂

壺生ゐき花えの山のゑる暮　五条　邦竹

　一尼

同　同所清書

　吐しの伽ハ松尾入音　今井　尼光

嶋乃うさせゐて古郷へ亀及れ　下市　守由

永像を削よ谷乃ゐ鏡　月　一唱

生ゝこゝて口　暖承細代ゐ　月　弁智

喪乃うちハ数蛍よ花せて蛍　今井　机川

曽城や行者乃術の所追　月　哈須

逝衣七日行ゐ　神　下殿　月　清七

郡猿よ茶を焚ル栄を拾せて　下市　由信

危逝や月色おにわゐ孫ど

嶋よぬ乃年を法く指おて　今井　時変

踊りくるれて立呉噪きり　百鮎

きつ村ハ情よ紙ねを色の町

同　御所町清書

黄ぶ乃ゝよき裕時

病わり青葉よ花の香ぶらい

茸狩りや春ゝぬ山乃念晴

茶摘ゝ都よ近ゝ生き初て

湯治せ一月数経れい春暮て

拾ひ洗ゝれい昨日の已う撫

散り残る花を芒づ紙て消香

折まるひ野菊八人の九ぐるる

詠まハ浴城や御室の書花嶋

須ゝ明石兎城てなけ特る

餞を青葉よ洗ひ朝わし

同　同所清書

うそ気味の〜きぶ〜きり

骨肉の地よ錫杖乃穢しめる　所　包信

立条　祖工　所　寸知　林堂　花竹　所　不数　月　竜梅　立条　桜水　鶯　一葉　三室　一山　所　不数　立条　東泳

菊濃の双野　鳥乃　胸よあて

行暮ゝ探多ゝ　軒端の月落

楽とのゝれりよゝを苦乃世界

物いゝ〜里やよゝるきよ草結ひ

行暮て君かゝる花を女性よて

灘乃梅雲よ浮木乃帆を挙て

炭荷よ翁乃ゝ〜る一つ橋

行暮る古寺よくれよの火を棒

訪乃利ハ明かよ有ゝ〜

同　同所清書

よゝいそれね秋乃野気色

竹輿よ人ゝゆゝや尾上ゝ麻の声

朝良乃花ハ孤人乃小屋蕾て

玉鉾を寄ゝかゝよ沓ゝて

月晴て岡一牧の稲むし

松虫よ又末白を声ゝ

病立乃門田乃稲よ良ゝ

同　同所清書

月　竜梅　三水　芳水　所　包信　月　竜梅　芳水　春山　玉よ　頓山　林堂　花竹

三水　竜水　所　帛松　林堂　一葉　所　水月　三室　鉄心　所　寸知　月　捐白　大谷　菊堂

春の心ハ野山にて有
糸竹の道を採るに盗まれて　池之内　秀
病かゝるまとゝ人違きにを倦　五条　粗ユ
燕に何やてんぢ来なれ　法隆寺　伴水
力ほゝ　高田　前仙
よむ歌の題に千草ぬきられて　三室　一穂
冷酒を好む月の窓あるゝ　兵庫　武因
楼に上りてゝれて　シヨ　正次
採花己を責る新しなり　兵庫　一力水
窓てゝれど雨に紛れ花の影　三ツボ　竜水
雨の日の学の窓やうゝ晴く　高田　前仙

同　伏陽縁松軒清書

寒の分別ゝなりきり　三列　吉田
斤肺ハ歌の小門に踏ちて　呉服
何かゝなる四気を消　同
松風や利休の窓の　江列　豊雲堂
冥加なるき妾の母ゞ別　江列　野洲　芦鳥
餞や帰朝の舟の地走人　和列　南良　鉄

同に茶ハ有ゝ　江列　海蔵　雪山
をゝや窓の有ハ有ゝ　丹後　宮津　正之
螺貝鉦鼓に花やさきに色　京　芳氏
子の乳るゝ孫ゝ粉吸せて　男　法　小六
上性根雷にやられて息を吹
打うゝて何をさやら　日野　幸和
代ハ後夜内に波ゝ物鉦
幽なる鉦鼓の音のする菴　若列　小濱　木人
なつかしの香や古御所の梅　勢列　自子　人佛
紅葉に埋む一カン霊の塚

同　同所清書　百番撰書

うちゝるゝて花に行迷
名をゝるる夜の面月ゝぐさ　伊勢園　岩水
くれ無ゝて八置まき
くれてゝう夜のえにしの縄　四日市　木端
殊数に打まてやぐる物の花　三列　川　俚遠
相合牛に欲を引ゝ　人ミヲ　中井氏
舎の傾城のえまる食　京　氏

みなとをとるとも見へぬ人せ
飛鳥川平夜のみかれをとろへて　和列 奈良 鉄丸
鳴ふるひて淋しき三筋町　越前 八千代

きんぎんをくろくもやる
嗚呼しく行く五　祢不久　江列八シ 東雨
凍へ死する雪乃門聖　三列 巴サキ 國泉

くろいとしいの海こきり
鯨波作りて笑ふみかれ武者　江列 海津 抑茶軒
四十の賀やうりころハ二十にく　紀列 若山 隣塩

同　同所清書

そぼふるくと歩むこの夜
こつ採ぎりカよ折りそくく　江列 乾知 一膳

かんにんをきゐて笑ひおきり
を採てきゐる很宇藤乃床　和列 郡山 智学

汁兎ゐへ
太刀取よ壹うかくゐ助快　京西洞院 周利
採指りや廻向しそくく比丘尼達　京 林可

きゐくと降る春雨よ友ほさ

洗ふのは救を掃を居眠り　二品 堀井 達广
春乃匂ひ人をぬ多ぬ天八　伏見 和吉

それ成しこ沈ぬいてゐる
関ぎの徒花散を女乃身　江戸八シ 三木
若君よ上ル乳筋をいらうて　梅雨

句題

乱髪貫乃い半ゐいてまゐ小蝶哉　京西洞院 紅花

メ九拾一句　前句二十五

題川邊餅　餅して蜻蛉ひ　栖鶯

滴水

右美及ー侭書付係る

滴水
言水　両点　細井戸清書　三十番之抜書

井のゐくよ次ゆ見ん直ス　朝ぼらけ　細井戸 之由
言水西京トモ勝セ
くかえてゐ土ハ世乃寶物　言水ニテ長イカ　大ツカ 一船
花散し後ハ田舎ゐ都よて　言水ニテ八ツ三　平尾 之由
汁番所の高樓目おゐ建所　日平ゐ六ツ半

夜の凉しかきハ昼ハ半分
凉しさを蚊帳より返ル不二の夜　言水ニテ長　百濕　一高
うき別も屋言の流れぬ鶏の壺　同平点　桃翁
雀呼色に別も乃良上ケて　同　六道　久雀
秋とりの多の比月よ〳〵て　同　大ツカ　一孫
句題　言水ニテ二十八
隻瘦や猫のしらゝ涙芳のさき　同平点　細井戸　雲外
外乃死や里の鐘撞く　同　大屋　南技
メ拾句　前句三　朝朗
元日　音やいそ作走の　ほ冷今朝　フレウケサ　池西　言水
言水
滴水両点
言水
青〳〵世々り四方の山く　ホソイト　之由
井のあ〳〵次安見直ス　朝ぼらあ　月　仝
花散し後ハ田舎ニ都にて　同寸四　大ツカ　湖
身かろ〳〵ハ敷乃なき寺に家沈る　同長鳥十

世ハ並常人乃掬ひ乃送りて　大ツカ　一孫
夜の乃しかきハ昼乃半分　日ヒ子三
錦木を斜なか〳〵よ板立く　ニレキ　十　同点
池あ乃ふ〳〵やあをせき入て　二　日平十二　三拙
句題
白雨や念佛居直あれいもり　ヒロヒ　雨子　太玄塚　三拙
外の花や人肌よなる蛆乃岩　日ヒ多　日ヒカ　詞
外の花や石よ角ゝし城乃跡　日ヒカ　林
一筋ハ樗を歯とよ蚊やり哉　ヒ　日ヒ　今井　香流
右十番まて乃内ニ満あ乃ゝ吋番句
二句なてハこれなし〳〵入各別よ彩り
いるこの三ハ小相撲物見車ゝ中て世
類乃して乃れ世清書前ゝて書
書乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
沈ノ
同　法隆寺清書
浴るの乃ゝよ迷ノ虹乃清方
入海や窓乃鏡よやゝる　女　江列水口　海ノ

温泉のりと云ふ所ハ里の貧て
蓑脱て元乃庵敬ふよ返さり
し甲乃有て俳ふき比穀の鐘
毒持て我負移を池乃蓮
石も昇ぬ蓮よりテス女
燕乃妹ゥ芋筍よ良かして
舟かゝる入江何待ッ鳴ッ多
芋〳〵花ハ業して過る丸木橋
汝車い半ばゝる毋乃身を泛て
蒐角碧らね岡乃民俗
憶乃猫ハ美乃る半ばゝる舟
雲さゝよ松をみはよ川ク奴
妹死て泣まね右を立かし
陵乃研よ院乃孝ゆりて
入相を撞ハ短し瀬田乃橋
桜狩り西てハ人よ逢めて
炙先キへ孤ハ歩ム小走
化野の煙りゝるはの気ハ佛

江州 百 沙川高安以上
法隆寺 伴水
江州大石 蔭冬
日 南天
日 寸木
兵庫 乃水
上牧 正保
法隆寺 言拙
紀州 海聖
法隆寺 言色
伊豫 寸木
法隆寺 木翁
日 笑水
下田 馬雄
法隆寺 諸水
沙州高安 一茶

句題

錦帳よ蚊ハそ〳〵入て西の庵　今井巴流

同　並松清書

物ひやつゝ小かれ八月海さゝ　法隆寺 誘水
欲よ初しや萠ル陵　日 伴水
竜池よ泡を入て悔しき

竹ハ障子の外の尼音
下枝乃梅ハ炉よ入咲ゝて　日 言色
ゝ〳〵人誉る人なき永ヵ庵　河州四条 月水

句題

〻立よ破らね窓乃時雨　道徒 竜水

同　沙州町清書

雨ハ色あれハ抜らぬも有　大坂 文化
鳴おス宇乃小草乃きゝ〳〵也　三日 雪枝
鳥帽子ゝ昔沙海士よ
誰れ流れ乃ゝとゝとる燕　沙州 若枕
菩提樹乃実よ蜩牛乃角打て　日 伴水
虫蟻を除ゝよ律の道遅く　竜梅

やるとくの咄とちあり富士尾
時くハ澪木の焉様よ成て
記を作る合利　光りの新成
亀斗一揺れよりるうれしさよ
覚るき狩よ平けせる凡恨
残りせる暑さ止多き庭の石
禁足乃菴よ揺を接わけて
誉ゑ〻〻徒母なれ子ハ洞
枯行よのぼゝね業乃蝸牛
亀云乃位う餅う古戦場

大塚安定　月泉　少柳　法下　荷　新庄　吐牛　三田　雪枝　所　松陰　三田　蝉尾　所　少力子　三田　前仙　法下　言拙

同　高田清書

月おゑハいろを薬切山の形　竜水
葬をるせハ人凡世界之　今
人音に焉帽子見ル孤鈴の音　豊州　翠迷
錫杖よ平とけ孤れら孤わか　法下　伴水

同　月所清書

夜よ成征志ハ物音

酔ねれで揺をるよら　竜水
僧俗を今ハ禅法乃盛よて　清所　季春
名月ハおれ先きよりも舟うて　吾庫　万ゑ

同　八尾清書　大奇也

月を拉てハ晩とる
金をるル金よん乃貪しさよ
人乃凡生ゑくまてハ泥乃海
毋親乃起しよ来ル細代さり
下向よハ女乃鬼とむらん
蘇生しゝ世の霜の凡ゑさよ
裏よも生れるゑ〻乃貪なん
不二乃〻〻ゑよハ蚊屋の帽
世乃毒常涼しめ人の大ゑ
（句示ゑ〻の桑句とやらん恋ゑ）
賣日ニそく人の妻なゝわ永勤
至簾乃世ハ枯果し草乃永

八尾

同　久安寺清云

月よ吹ぬて沿男ゑ

盗わる毒乃ゑハかく庵

同　同　所清書

慈悲乃のき茨ハ宇に草ゑ
永里よ永と乙きるな　墨衣
石佛門田通ひ乃拾ゑ　江戸川名所　秋之　名品松乃　虎白
烏やる毒餌よ猫のろ　東口　一玄
敵くて居ゑ春ッ敷乃舘　門川　翠亭　金堂名　西元
同ー荷の暑さ煩よ鰐馬

同　江戸別山田清書

ゑ乃上ハ行きたくよ
世よ志ゑ乃ゑ泳ぎき清白鈴
京へ来て但持よ四乃物語
拾ゑ
生乱とかそ如る罪乃ゑ
配不とて言よ心を永ゆ歎
佛法とそ乙ゑ常乃誘ゑ

同　郡山清書

志ハさき乃近き一星

産兼る時ハ墓目のさ
こくハきかよハ四ゑ乃石瓦

同　所町清書

言縫て　鰐乃緒わくふ宮仕
菱笠の煤に成てよ世のほし
言人の四よ技ハく　鈴まて
捨ン世ゑ捨さるわ世話
炉ハ如くゑ都ハ人の志ハ

同　戸毛村清書

名と情疎せー武士の相戦場
名と集てハ法ゑさく
朝ゑ折箸流と谷乃ゑ
晒骨ゑ惜ゑ上よハ稼ゑ
神ハくハ出栄をやん神五月
世のさ法や離宮乃窓よ年ゑ

同　所清書

戸毛　任公
所　忍信
堂　救
戸毛　月枝
一山
所　随抑
日　我嘯
年井　きね
日　口○
池内　市

鬼と[illegible]世の中て
葬を業乃[illegible]ハ 侍りをて　小所 包信
法廣き山ハ女乃道ハ狭し　三ヽ 竜水
汝ハさられて亡ハ破し　笠
世ハ狂し海去帯刈ふに切れ誓　戸毛 月枝
津道ハ擦ハ 拝し　泣ク女　林堂
世乃無常ちゝね尾さく　法ク泪　花竹
草乃高揮ハ踏ゝ又上　小所 亀流
尾交 蛸を　美ふ　石女　月 亀流
裾川 祭ふ　陵乃　三 鬼　月 包信
隠 居ハを 苦ハ菊乃 蛾巻　三条 一氏
人乃今ハ 生と 琴 末て　小所 不枝

同　曲川清書　五十番之内　磯

わくゝハ殘し　伊賀名 和氏
百草にゆるして 摘ね草人草　小所 正乃
拾ひしを 続毋ク 捨し 藤の角　細井戸 之由
勅使ハ池の蛙し 鳴さして　曲川 翠迷
見ちらしゝ毋ハ 盃ふ 新乃 取り

入相乃 鐘 木ハ虫ハ 食とられ　吉井 吉次
四人ハ見せて 法ちる 四の 後嵐　及我 拙笑
紅葉乃紅を 恨ハ やる女　曲川 翠迷
乃る 紅乃 美ハかくして 虫の色　中ノホ 白柳
裏ハ次 車を 笑ハ 世捨人　河ノ加岡ト 信元
鬼乃餅と 勤ね 僧ハ 指され　林堂 一葉
朝貞ち 酒乃 呑れわ 見はて　大ツカ 一孫
言して 懐ハ 昊乃 木ち 永　曲川 翠迷
懐しき 梨花ハ 谷次 ちの いと次　今井 宗久
銭乃 柄ハ なれと ハ 薪し 桜桐の 花　曲川 松栄
けれを 今れを ひちる 軽の 杖　同 仝

同　同所清書

目を 開しわ 物乃 ちる　九品寺
朝ちで乃 魂ハ 美 流乃 奴ハて　富庵
葬を 永ク 心乃 所ハて　中ノ司 一水
雨乃 打 野の 花 石 所と 成し　芳根 元乃 滴
月に 生て 月に 亦と 虫ハ 食ク 虫　大阪 勝之
東雲や 人 裏 清 て ちの 青　法ク 伴乃

廣乃巣となる和筆よかて侍
加持力乃意かくる人乃骸　岸桂 豊川
名月乃月よハ遅き寺乃鐘　所 翠迂
胡蝶飛てよ慮舎那の像寂へ　所 正あ 洒落 俳あ
立やすらわて蛙し良成
川柳永の心乃所とも　所 随柳 洒落 俳あ
改なげて女柳ゆとそ
実植しと永名所　白杜冊 中ノホ 洒落 俳あ
念佛とる抱生乃石ハ苦乃死　白柳 洒落 水 元 月
かゝ尻の馬さへ笑ふ女郎花　所 不羽 郡山 如あ
身乃立つ朽てもおん碑乃銘

同　戸毛清云

夕乃空を白眼付さり
ゑ尼宋も土もかゝして　所 随柳 名稿
帆柱し比叡　散る　煙も一ぱゞき
君乃勅唱り静りて雷よりよ　所 菖山
血を分ね母を慎して笑と蚊　所 竜梅
竜ゑ〻らに高ぐこぼく　所 亀流

松原や茅よ先人面影　女 鹿中 所
月乃蝕れてくへ神よ恨色　包信 今井
勅願乃慈ハ見て見去ね　松尾
なゝ事も返成　戸毛
爰よ人る不二爰度して　月枝
猪麦きハ胞衣よ紋　一尾 葉

同　同書清書

永よ青き松尾乃塵
川乃ほとかれ孔ゝ逃乃波　水丸 洒落
笠と技除数ゝ外ハ法の邪　左素
髪ハ尊る一月のゝ
黒髪を刺まて兒ハ男にて　夏安 池内 不及 河内国
樣死車返さん男　憎し　洒長 郡山
え送れよ君ゝ家肌の綿さえ　如水 豊川
永乃供御よ永早足と撰おされ　翠迂 洒落
人愚百舌乃子盃　雨蛙　吉菴 大坂
かゝれ永き身の如ゆ念佛　柳生
水車麦ゝ青ハ乃しまて

燧メる放つ人ハ飛ね驚 江戸 方二

同　同所清書

徘徊くと歩き わたり

入定已来世ノ人ハ実ぢ ぎき

陵へ葬さけ生る尼尼へて

ほろぶよ成て行世し

生あれハ誰しも人の名をかなる

同　道拙村清書

岩乃上かゝ世上尼賜し

行方乃ゑを作ゆ て伝菴

野乃煙り立り人の数を涙

苦とて人系とて人ハ爰乃百

ゝよ死をハ蝶よ家をき初桐

我骸ハ何岡乃ゼゥ請取ん

行ゑハ曲む柳と名を立て

半分ハ人奥已人の気てゆん

逢まて乃籠の極メハ春と秋

桐なき中ハ窠なる御墓あり

江戸 月校　所 亀流

所 白信

太田 負　三水 松水　新庄 夕且　大屋 南校　赤ア 一部　月 寸印　洞ゝ 雨水　山田 斤多　三水 竜水

指折り数を忘れ死乃煙り

有花ハ数よと冬て中乃ゑ

國をこそ産て人なせ涙流嶋

いとゝよゝるゞ苦の一世

黒髪乃夜毎よ動ゝ永女

侍を見交駒よて盗ム 菊

所 亀流　高田 流水

陸奥 陸柳　大坂 梅竹　三水 竜水

大塚 鹿白　正田 三樹　三水 竜水

江戸 又翁 晩水　江戸 月校　三水 光水　イヤノ 安早　江戸 乎乃

梅桐方乃梁 詩乃柱

南無ゝ 濤う 陀ゝ 波ゝ 一つ桐

花よ気を盗まれるかゝ花誉て

永竟を桐う枝よ盗ませて

入相乃桐よ 酔を 醒さん

菊植て世ハも姿も養ん

いのちなるものの清さ
松島や鶴に乗れる天女乃ふり　今井宗好

同　同所清書　廿七番之内

年よる事ハ法気乃二つ　彩女森松
梅葉ひ蕣ハ法気乃二つ　細井戸栄尋
一生乃科ハ至楽乃菴　山門正水
老雨よ降る屋根乃杜若　松塚鹿白
僧ハ多　鬼ハ角とる雪佛　同仝
きりとるハ佛の盗ム花よりて　山所正乃
気乃つりね石ハ寺乃鬼毛　志ツカ三拙
今春ハさぞ紀世一ハ川蒜
南ハ人乃ふゆ
肉乃有　子ハ相撲取る　今井辛丸　山所石牧
碁石ハ打て打て羊の乳　池内秀乃
舌ぬるひして海る浦波　彩左森松　松ツカ三拙
紀念乃僧を呑ムき地も
北加乃麦今よ泊ル海乃果
下向よハ男乃ふ乃閑也

雪乃花乃嶋を雀乃ぶる　同　仝
句題
永燒てかれ乃気よ成数ぶ　今井雅云
消方乃虹乃跡持青ぶ　今井長湯暖
同　今井清書　雅言
暮乃嬉しさ而入生る
萩原ハ疵愈ぶす乃歌はて　大ツカ一弥
世まく至も口ハ一きの　今井松尾軒
冬に京ハ落と退せし鶏の色　ツル水丸
鐘乃長草乃又ハ世の出
歩ぶも芭蕉乃月と葉ぶ地
朝夕乃煙よ煤ける男　戸毛任口
世乃稼れ乃ね菴乃茶賣
塵ハちと塚ハ四辻　今井幽笑
身乃一期舟よ年東取人ハ　山川羽笹
這おもハ蛇蚓ハ蟻よ利の心　今井曽水
気と好てよ野乃さるハ花貪　同雅言
惜りて乃抑ハ赤き花咲も

入江の増め海にら　　全井　泥貫
月中月ハ同じ　中形乃長短　　松塚　虎口
松尾より遠く雲乃根行

同　道穂村清書

のんどりと吹く松尾
生ー汐あく石ハ岩まで次声立て　　乃穂　竜水
戸ー踏うちハ休まる右の足
現乃る古井の底より波を形ー　　俱羅　竜水
陵より清き流乃火を焼て　　全
古きよりの烏帽子を嘴　　彩屋　夕旦
梅生て任真る修を庚　　同
外宝乃地蔵ハ岡乃毋より似て　　蕎麦　松尾　西札
依て仕合乃らい吐也
云侍し給馬ハ人乃ら真

句題

走りけ花ハ柳乃小蝶哉　　大屋　南枝
御車より加まへと折らぬ柳哉　　クレラ　水丸　竜水

同　同所清書　百拾六番投書之内

よし有けるる次の搆て
左踏内ハ休まする　右乃裏
南拉乃星より出乃音少時て　　石柄　法隆寺
梅より酔　梅より醒てりるる　　石柄　蒼山　伝乃　伴乃
松ハ痩　梅ハ微中るるやく二つ　　寺口　元治
蘭乃香乃人呼戻とする暮　　三ツ木　竜水
左琴乃乃帰　蒼匂うし　行紙　　山田　友子
さき乃夜乃爰しら芝堀の亀　　乃ホ　松尾
痩せる松より白雲

佛法中ましより僧とハみうねる　　伊勢山田　伊吉
釣鐘ハ茅より出乃喰残ー　　石柄　蒼山
海乃鳴　音ん　彩て　ゆメはりの空　　郡山　如乃
悪念ん　返ん　神ん　人呼く　　ぐ井　東雄
蝙蝠ん　花乃時ん　の花食く　　麦塚　三拙
蓮池の蓮ハ戸地より彼られ　　日　幽摩
もろさん　せらやものい
梅ハ薫れて鏡　乃ちき　黒　　若柄　蒼山
育乃稲ニ乃ち　貝れる　　全

らく人乃世界心まゝり

石佛拝まうけても笑ひ皃　華　花竹

権作乃弥陀よも淡のうき庵　ハシヲ　梅次

傘乃骨ハ禽木よ柄ゑ柾　平尾　忠次

此句みなしら面之但点者乃心よ不入済しお出る
句とれをそれぞる乎やいまよらくの世界成
とも人乃の中よかゝやうなる致よ征とのゑ
有由しと人了まる

えゝへかしまる人の併

産落を時傾城も名へ付を　久極　竜乃

右二清書ともに道秋村の清書之なまたり
此内へ体まもる乃付句二番句し四番句之又
られより此付句咲や此花よ大坂末山のお句
跡をえんりつる夕暮の雲とりよ二番句よえん
えらりきゝれハ二句ともにしや句也扇之よ
書了よく塩梅よされハ二をいも三杯も少く
たくともよハ変之同し清書なまて同し点
者の無之上ニたへ甚しくさるを第一鈴句

せぬ人の意根よ合りまう句よよく移りて、
退されぬ句なりとしれをしれ只ハ詠り善悪を
末句よ入らぬなきゝハなとゝや人おをけん清書
より我等もかきしかれハ給句をさるゝ作
者の粉骨せしを捨て露かき暮せらるゝ也なり
此二句をさく入れ批判をさるゝ此後よ書下し細
お句よ又十二番句よ入られたり此外末句よいま
井戸村の清書よ田畝りくよ水へ淀めるとよ
ヒ二三句も在之よし人の語りし也和品のうられ
てえんや呪咲やこの花の集落散らさらん回
々ゝ有まし此句一句利根よ云こゝすしまる
句までどの前句よを能梅りされハさぞ他乃
輿よりもとめそしとこしけらん無変此句よ点
をせぬなりしと評判まる也既よおくよ此句
点者の御好物とえへよりも物ぞとめかさく
ハ此後も無変付そしてらを案交も番句よ
入らるだし惣していれれの点者れの巻よ
も給句二句三句けて在之なれ給句とはね

なるて点ぜるるる事ハ是非なき事也然れ共
者の巻ハ勝句ハ巻ごとに句在之由しか
十番まての句ハ二句三句ハ毎度在之来
の番句ハ拾集ハ書ちがひ次三十一を拾句ハ
て宗匠苦しき犬の尾ハ食へとくらうくと
只同しく夏のこ番句ハ仕り般昌とるなれど
さやうの人のさしもとかりひろ拾集を
撰おき者せられども悉く拾句と書ぬ
ん事を流石なれハ大形ハ除ね讃人気と
付らるるしわさら玉ハ疵の有点者せや
鈴句せぬ人ハ代ぶやきて外ハ句付せね気
ハ成まろ一句成れとの人負せ事とる句こそ
よきれと人の句の俤をなを嫌人有られも同
しく人の上り賠を居ぶとを加るうハ二三番の
上覇ハ直ぶ五く恥のかき形りハ一拾そ二番の
て五十番百番の後ハ人ひおされて後成
扇ハ一句吹煙官の事ちを以戯して書
技を諸人の拙えハ人物かりしるる名

業ハ貞をまをられ毎人ハ能く事に非
き次第也在ハて人くお会始終一句も拾
句せね人一人又鈴句屋れ数多連毎姫ひ
なる人ハ事ハて日ク其方ハ當世のくや
ひとものを姫ひ賢人ぶりしく曾て拾句
上代ハ人ハ昔ハ時く番句ハ代ハ
笑ふせとう笑ふるとなんも偏ハ
一疋の玉成徒を一つの嘉興徒ともの汗勝
らのかりと笑ふせとく人ハ俳ハ初句の
学くハ成行ものかくこの事の後ハ盛て
紙ハ名人ハなる物なれど人代ゆるしを
ぶ一何ものの行業と日末指ハ筆ハらあ
人の拾句せしとえて西行法師の後徳大寺九
とえぶ一さうに世人をさとかうのたなりと
今まて誉ける事を真実ける拾句ハ
人の指られ上代ハを雄句と云ひけるとて在
原の友平公伯父業平ハ弓と掠られ事る事
百人首ハ折ハ彩ひ名ハ名代ハ織られ

うり売り今世濁乱乃砌恥を恥とも
心はね平人の業はよは足とて色勝といふ世
話と鳧とはわけある物なり和漢よりの
点者の業昌なる事一発句能働く
ゆへせと人ア言る公ハ点者ハ色を鉛句をみ
とらせらるゝ方ハ句を疫病年のこゝと
謂者乃業をかりと内ハよは市なハ色し点
者ハのれとて色論ハ色鉛句せし人乃
恨ん事を浦ハ只人ハ評判をも
ハ行ると神よ云張をもの角ハ必と素
を身よ覚て俳家と云て一句発句
してきせし事ハ和加土作町二大阪
万海公乃ち句とて多来せしとえんハ
ちゝらゝと實ハかゝ仏ちゝと句在
之し坂集乃ちよ書張を京好春公のち
句よらゝらゝと降かゝる寄とゝ勝句
月ア代柳さひしき後しる無句ハこ面
前仏公とゝ人の句心ハ人今ハ色仏ま

これをもて主しるる沢業のとく六番
句よ走りて下物と云ねる草の張よてさひし
う笑れをハ人ん夏を恥しきれハ佛ちよ俳
て廻向し作りね是と云ア云ア次ハ永ア
夏ハ包ねと泡夏の木とハ人ん夏すと恥て爰
よアね誠よ骨をれとして発句ゝとよき
物ハ形し生来噺と傍夫仕事し人ハ泡ゝ
まねとやらんア也鉛句仕事て変く番句
よ入ん人ゝまねハゝり也芳万海清書の
巻を按ゝ方ハ人坂集二百八

同　松塚村清書　番句六十五番　之市

泡付られて草のとゝ
江と忘れ頼よ垣る雷乃添　由川　翠迷
身と植よ新射させしと立替り　今井　天乃
居在て落象に新を立くち　袁塚　三拙
喰残次土を蚯蚓乃夏乃衣　由川　忠次
湯よなゝね鏡よ用城れ女　大ヌカ　翠迷
向ましを嫌しむ気なし律の僧　三拙

さこ[illegible]くの乞食よなれる世界花
耳遠き人こそ人乃佛なれ　　平尾　竜[illegible]
苅積し編村さん　一石　佛　　中名司　一水
入定乃沙弥乃撞木乃音七日　　[illegible]　虎口
汲ねりハ心て濁次　古院乃非　　同　三拙
汀よハ馬乃宵と射乃矢の舘　　同　荒白
也よハ見せね恵乃蝶　　大尾　南扶
朝良よ次安向れて　石[illegible]　世界　　高田　柳水
猶させハ美人なるくし物貴ひ

同　　猶津村清書

独住世ハ気乃毒乃物　　細井戸　之田
いとのひて手ハ差上ル　天乃示　　ホツ　岸挂
永詠て法乃永せ　秋乃雲　　寺　[illegible]久
病として乃蘭乃扉ハ開色
栄乃方よ[illegible]筋　　ハ[illegible]　如水
月花乃方へ永乃の枕ゑせ　　全
雨乃日ハ鬱陶よ方乃習世　　[illegible]　因子
常灯ハ一佛乗乃種なり

同　　十六面村清書

ゆるりとちるる伝の陰
酒よ助永を桜乃散　埋メて
銭とれ道乃紅乃　石佛　　十六面　如元
道ま入山ハうき世の蝿　　十八面　如元
一念乃気よ動うさる釈迦乃像　　之水　岸挂
人肌よ[illegible]て美乃る石枕　　像ル　信次
不死茅よ心乃鬱ひ味て　　日　喜[illegible]
清張りよ日形乃桜引せハ　　十六面　如元
腰ゑし石　曙ゑ　弥　生　山　　大アミ　利直

同　　今井清書

いとハ家ハいとハ[illegible]
城ゑよ井乃陰なきあ乃味　　若水　舎舩
牡丹　畑　根穀ハ　垣くいやまれ　　今井　雅言
晩鐘ハ心法もる　秋乃暮　　如水
麦畑ゑ花ゑ川乃元ゑ　渕　　西辻　宗好
散時ハ箒よ[illegible]る花乃果　　今井　浜貴
松尾入し懐乃うち

行佛を物をもいふハ若の世界　今井　柳子
老別の恨あづる　鶏の色　播目　呑舟

同　九品寺清書

先ハ目お爲事てそれ　今井　魚貫
見し風ハ現の後　愛の哀　ホツ　岸桂
三年ハ須臾よを月の　晴かて
　　老ていてわル　垣柿の枝
侍育の心を法ス　雨　蛙　ハンヲ　一言
ある男ならく男　色　ニツ　山田　竹二
　　発法気よを　揺　誉ら　ホツ　岸桂
今日まで　ハ　蝉　ス　踏れ　今井　泥貫
　　茶碗よ　残ル　酒の　残り　香
ある　祖の　爰ハ色　ス　鐘の色　九品寺　寓竜
没捨る　祖ハ　れを　り　ある　の悲　今里　言玄
　　此清書ハ未くとも球二大ら拾ひ

同　今井清書

柳やり　ら　松ハ玄なり
蛙　食　蛇の　盛を　呑　蚰　蛞　雅言

蕎の巣よ　鳥を　家　ス　鐘　家て　牛よこ　ある　女　武　者　今井　東離　江戸　桜堂
切ル　牙ハ　操　の　徳の　郡山　蘭神
雷の　響　れひへ　ね　聖の　徳　日　知る　ハンヲ　一言
三　ス　り　枳　穀ハ　垣よ　直ス　ル
　　一つくとなひか　ハる
父と　家て　乳房さ　次も　れ　洞　仝
　　是ら　さきハ　り　次才　也
わも　妙　率　個人　ら　に　木　母　桜　江戸　野　桜堂
定　命の　外ハ　佛よ　かる　令　玄ツカ　角丸
関さよ　狼の　腹を　さ　し　て　名柄　葛山
同　細井戸村清書
三里　戻り　て　史　し　鐘の　音　赤ア　王言
入定の　山の　名よ　呼　僧の　徳　平尾　晩玄
新る　か　ら　拝ム　ム　ら　る　宮女　玄ツカ　鹿白
只ひと　り　負の　碁作ル　暮の　窓　東離
を　の　役　ひと　め　て　新の　負ハ　る
　　ら　く　ら　く　祖ひ　負つき

又科や二十日の百八同一齣　大学　一球
散銭よ駒太しかりしたるれ　曲川　翠迸
大うさハ懐よりそとけ呼小名　十二宿　如元
田形りくまあるハ淀やる
火燵かくり呼を答ふ浚しるり　走船　平尾
食ぬ気よ洗ゼハ飢を定かも　忠次
悟りて色鳥よ白き種ハ見し　皿　ロア
左り踏うちハ休まる右の粥　借女

例乃沖好く句也

同　道徒村清書五百余吟之内

書弘七三十番八言水勝句也難波乃浦ゑ
各別のてうよりに付多年やしよ点元をい
番句十五番と望きく八潮こ長点八手孫宣
二加へ十番結ちき右し点ハ末山也それ以西
吟へハ番句望きり刈左り西吟点也ゑ行ん
ゑ人味ひ

二ゑ八廣一校ま人界　入屋　南谷
花猪乃氣よ洗うゑ神佛　郡山　如水
明ハ次月ハけゆるう鏡

碓乃壺ハ五橋を牧せう佛　道徒　竜水
気を育むを色ハ菴解ハ野辺　ロ所　帛李
舞うちよ蹄よかくらめ雄山の落　郡山　蘭神
ある時ハ異類よ亀を借ス　佛　新庄　高松
ゑくゑ一生懐よやーみれ　乃徒　竜水
夫よハ勝て内義乃ほ落れも　赤ア　一布
安ひよ命を摘と鐘の数　ヒロセ　南子
義ゑ八久ゼハ元乃業乃菴　乃ホ　竜水
生死や谷乃朝点峯乃去
未廣ごうて流れ行ん
墓乃雲己ゑ八うゑと也之　弁庄　一笑
嗣残る岩よ用るき花遠　乃ホ　松水
稍妻乃照と経木の身ハ遠　ロ庄　落雲
城郭乃えよ蘇乃張の宵　山田　ゆ去
半分ハ喰余次酔ん四乃稲　玉手　水月
南ハ田乃よ北よ女乃一人　辻　宗好
九重乃外よ位ゑも人乃種　ミロホ　竜水
悟りてハ酔乃遠よ少乃美　ソ子　志計

新嘗や豊と書字を植ゑ乃

[illegible]さくと乃[illegible]の[illegible]

手鮭ハ柴乃煙よりの雲の竜　芦舟

酌食乃肉ハ蚤蚊の俳よりの　名柄　葛山

世乃欲き別見え達子ハ知職　吉野　汶水

肝取し俵の亀　永責し　辻宗好

取戻し佛よ道乃嗜みも　曲川　随柳

[illegible]き[illegible]ハ匂まれ　聚逢

泣よさし笠よ明る窓の[illegible]　江戸　高松

仲乃枝よ[illegible]数乃仲と成て　斎田　一二

兄弟乃羨乃[illegible]る朝　朗　良福寺　秀俊

村時雨若衣乃傘よ除[illegible]　郡山　一山

禁足乃罪[illegible]　男　泣　郡山　富水

番句付いろ[illegible]拾付[illegible]残りハ平点かるゝ
名ばり愚眼よ及かゝ付てもなくゆ　子晩隻

戯[illegible]統[illegible]八句
祇九[illegible]
同長九縁
○四蹄

同　河列山田清書

次才くりよ太[illegible]松の校

透腹よ閑居乃味を喰初人　山田　万二

入定ハ廣さ虚空ハ[illegible]破りて　新五　當治

人の世ハ蝸牛乃角に[illegible]　三ノ水　竜水

白雲乃化て友呼ふ山さゝ　山田　松雨

今一色咲ハ和四乃[illegible]乃玉　同　逐水

洞院乃えて落よ杉住蓮　同　麦子

心ハさきに急ぐ人　辻

佛さへ神と産て死乃安安　西辻　宗好

白奥ハ壁よ[illegible]男ハ重し　山田　万二

山三番句ハ閑居の句謡交のうて耳よ[illegible]

家めゝ[illegible]ゝて[illegible]人の眠よ[illegible]ふと

狂言を一[illegible]情也[illegible]ハ生原業[illegible]

立田川小せ[illegible]へ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]な[illegible]潜[illegible]

[illegible]秀[illegible]

[illegible]出て[illegible]を引置[illegible]

千早振神代もきかず竜田川唐くれなゐに水くくるとは
歌とハ金ノ点者を作者にしてはかハ乗
噛まぬ物を歯骨ばかりなる一句よく噛こなし
さる句なりと感心せり此人のいハゆる
無してさる点者乃付句をする歌ハ早雄み
成雅しとぞ此世人の好物の点者を
数多ノ作り置て前句到来の節ノ合
てもさるの番句さるべきやうなりと語
ら迷ひ実さも一理也雅俗人ハ世風義を
動ノ跳梁中ノ名付ていつまの句をあてうて
も移ら世ばやい事なりしてしば風義嫌
といへども三べくしれ変ー大ノ流ノ人
とハ付句をする事ハ先て祢代ものさ
なるいとめたるー隣国ノ事ハ別ハ
ものを多分ハ風義不好となん和列もハ
半分ハ専此風を好京まて名ノ大家
ハ祭まみ半ノ余ハ雅俗の風義を各
別変ずるもみ世人一人也風

俗をとく人雅俗風ハ不ノ一わかるとてなる階
みもちろくおびゝ又ハ風儀を嫌ノ人唐人の森
言を空様ノと嘲ハ世心くハ世界なる也ハさも
のの変なるもの両方ノ風雅ハ不足ノ
人のハ変なるんハ不とハ他ハ越て席ハ
切を小風俗合わるてせざるんハ遠なるんハ京を
大坂も雅味ひ変人ハ心の楽ミ多るんハ也
これハ秋ノ一代の説法も正変乃初華厳
流俗ハ終り涅槃経ハ方ノ法ハ依
て流ハ弱ハとハ変ハ方ノ雅学ハ
俗人ハ相ノ風義をんなんハ年ノ仕員
ちくべーろもあり三ノ俳士ハちつべけも
ちろん雅俗の風俗ハ禁裏の景陸奥ハ未ハ
てハも批雅をおん人ハ俳ハ風俗ハ
半ばハ席ハ席ハ間て番句ハ番
もなるこ変ハ云ハ一座の変ハ
ものこ痛ノハ点者ハ百韵ハ
方巻の点ハんハ余ハ

みな寒きよりて此風俗計り行むくろます
是をすりん事やせと人をすれ尋さまでとも此
点者もあさの風俗を経て点を出らくを
や嵩ほ大坂清書二
ちらふよ程ありしくりれ流といかあるよ
踊物の殿隣乃修をほとの付句を
余升褒美して三番句とやらんよせられ
此清列の人乃誌ら是あり和列清書よ加様二
勝甘之点句八ゆくよ平点でもうけぬ人せはし人をも
ゆゑよ依て法を徒ふ人せと云ふ鏡ヶ今感心人もお
思ふ寒也私二曰く是点者の妙也

同

郡山清書 番句五十五番之内

良を折るは一家にてそば
鎌倉られよ野也此山也や　郡山 結子
入かゝろうんとて退きて虎うらん
尋ねまと母う書くは敵乃点　同 冨水
おそしといひ越をまぬよめ句也
十一番句と同点
形代乃獅よ詠しやきうぐ 法　奈良 水卜

令捷っを野よ沈む齢乃声　東都 深水
忽塚よ身を縛る秋の螢　合　郡山 湖水
兼堂して楽を藻し 家擂　同 云助
亦死の魂も寓流る松北声　同 赤治
述堂乃瘦蚊肥るも法の種　磯野 安平
乃ん紀をして母八盃流父の形
此句は点者乃云削句八宮川清書に番句ふつん
出り此作者の番句は清書よ二句ならり二句
たまをそめ句せもよめ句能き心得をは存たりて
や
家保入ても野山を欠流夢代亀　東都
余ふ亀と云ふ句点者の好物也似者能知
ほていむすかし是よ余らん

同

九品寺村清書

岩の角さへ丸く成世の流
世の塵よ揺乃戻す紫れ磨　今井 東籬
拂子さ流ゑ八我身を三歎　同 泥貫
佛法は鳴て衆生よ姦烏　同 白紬
万物の首も垢乃役る性　郡山 湖水
人の身を痛むとも食日比薫
もうをとらぬ花なる沢　大さと 利直

声の引湯ハ瓦葺迄
搾出してはらもしさ贅牛　郡山　今龍
墓所乃杢已彳がみ代代を　今井　摩詞
さゞれの澤せゞ澤の世一つ　今井　摩詞
織多丸殺さし盗ま多っ尹
消せゞ人の白沉みら灯　九峯寺　寓瀧
兄弟ホ甲乙さて讓う金
人三百七拾四前句八十一
京分惣合七百九拾三句前句百七十三点者拾三人

○自己紹波姫阿沢分不同
○影ワ死親ホ面ていり秋丸水　前川由平

文十

上里清書

杢せゞくとのるて答
乃とく清水かゆゝ丸石佛
蛍火ホ書ひ迄て風花ひ茶屋
祈すこ月宮居丸灯滝沢弟
一つ宛月ま備一萩乃宮
彳屋乃月羽ハ雲ホ包まれ

ち藻して小社の行燈ぬり直

同　清書

當座ほゝぜしまの島
気冬しに毎夜八ちの導子鳥
京乃水今ワ鄙丸以沒て
うさまホ峯の浪彳ワし勤
けも風一世ま咲ま多ま女ま
夕貞ま花彳みて仕舞
メ拾一句　前句二

○世の秋や老骨丸森の七つま　飛磨　去舟

五風

河乃辰伏大村清書
黒部ホ夏と作もいま丸
我ワ風姫二人八源広ワ　先春　可雲
傾城丸ケさま金ま好ら多て　三嶋　抑水
なの彳ひハ都ま宿ホして　好抑
戻ることを外ま和こけワ
古里へ人ま伝ちけらー花賀　伏柴　遊田
花乃山海ま雲伝と朧月　英表　瞬鳴

俄雨ふる身に濡ぬ巻の色
夕立や新緑太ほ蝦乃家　抜列侍里水　抜列約元峯

久の子〳〵
ゑのゝなかりでもゝ
ゑ家ゝ子ゝ
絵双紙を家ゝ
同　和列清書
まゝ〳〵て面白さる
水深るゝ石ゝ
賦の男ゝ
時ゝ　我俳ゝ
ゝ
春雨ふる新
瀧の水手腰ゝ川
雨の日ゝ
窓掛さ
〳〵拾句　前句ゝ
一時吟惟中点

抜　吟竹
月　車情
抜列抜中　知見

著尾正之
歳本信次
月木水
月上田
月主坊
月上田
天ゝ蒔角
新水西風

朝月影
陀ゝ身の疲
人〳〵呼
○東雲や西八月夜ゝ

遺穂　竜水
林堂　一葉
同　叔
十万堂　来山

何中
見ゝ
前
親一期
道
掛
雨の
ゝ
ゝ
門の

同　戸毛村清書
昔時ハ
暮日ゝ

抜列抜中　林堂月枝
抜列抜中　花竹

馬士乃霧えの八ほ七酒屋おて　御所包信
永くゆ引声聴ー南無念佛　良福寺隨風
食点のゆりめ迷ふ百夜
妻なーで女乙姿よ者ー

同　林堂打清書

火鉢ゑ中ホ名ーて
めづーしく物寄盆ホ入へ七て　河所車木
水仙八蕗子ゆ七ば七ろんこば　林下一葉
正月八配食さとあ世の風情　ミツホ竜水
大家や隣ホかけ法猫れ部
数多さうあでぼくぬるれ夜抱
よ逢ひ女ちよ我ろ　亀

同　行列古市清書

ふそて乙生八ろ別れか
明ぬ生ぶ七やあぶきの音尾七猫　御所龍春
とのゆよ法と猫せいと　クニウ露庵
定ち化物とやハ知ハろれのめ　御所包信

帝　如水

まするを先ろ行人ろ貞女也
義を笑ハぬ者をとのーく

同　同所清書

二月三日九ろ行八ろ也
笑ーー八清水升ー都ーみて　佐山賀頼勝
人をろぬ市の仮宿夜八明て　一只

同　打ろ野清書

笑ひくろ通ほ商人
胡隠日ア明ぬ茶屋八夜中
酒屋のハろ二つけみル女房

同　和列宮堂清書

ろ法くそれと知て法
菌を喰て苦ホ法ば我娘　林堂一茶
古刀路銭を拾ぬ身八悪ー　名栖
ろの乙八髪ろ長ろとうさ世て　林堂葛山
歌味方隠て法武士の兄弟　河所若竹
俺て飼ぬ大呼　女声　河所正高
恋のみけすき食義ホ妹ろ　同一由
同正高

独生物語（抜ぬき）おもしさ
花ハさてゝ子に打ぬ　書ぬ花
同　河刃花太村清書
ろ絵ゝ出しく
室引ハ近ひ姫ぬと伝ふ
質種も流石ハ尽ぬ所ぬ所をへて
言ハ乳を行を加ハ方ゝ
奥板ゑ姥ゝ嬰まの英ゑ
いゑゝ教ゑ役の乳の人
家大工の漏ゑを直ゑ殿の上
旅連ハ上ゝハ差い心し
員てゝうらハ侍従と定ゑ
花の時分ハ賑ひ
拵ゝ打て携の梅ゝ
七夕ハ荷葉拵ぬ
打ぬゝ舞ゝ
板立ハの駝ゝ親大工
生板ハ奥ゝ豆腐裏表

熟産　夕且
野田原　為樂
大久保　正吉
大久保　正吉
同　花兄
他太　梅雲
木屋　卜志
鞍作　一木
河内ゝ辺　義清
鞍作　一木
金田　珍風

客人を道場坊にハ一ゝらハせ
行ゝとハ言ハんすゝ
子をゝん乳ゝ行ぬ下屋敷
裏屋ゑて大拵拵ゑ会佛講
同　河刃花破清書
拵ゑゝ
ちゝや生書ぬ妹ゑ絵ぬ
ちとぬゝゑ五絵ゑ
蝙蝠の御て流ゝ涼殿
御家督ハ同一産
家敷ゝ逆拉
茶の入ゝ一室の壁障
相住ハゝとゝて家金
別て入て　入定ゝ
別て入て　点掛て
別て入て　切窓

高柳　河泥
大久保　花兄
為樂
九夜　云山
小寺　秋岸
和州沖所　帛雲
凡破　幸流
布亜　白林
凡破　云山
布亜
凡破　伯狐
山雪
同　良海

同

同　和州楢原清書

茶のんでもこまぬ也さう

いそらゝ生抜なまぐさし鯲膾

熊刺浅次茶梅にて見ゑて

冠を浅沮乃浜子戸を志めて

世に酔し身を醒井て手比て

水のむ深さ乃池の白蓮花

滝の雨不動の白眼を畏蕨

菩提樹を蕣に戻れ山

蟹の巣の山岩の清水に咽ひやし

茂錦織るゝ続れ菊れ嵐とく

つんしまぬやうみし

見るかても遠ふ庭らぬ

元日毎墨書八斗れ花を遊を

雨よよし温泉に行手を漬湯女

円人にあるて泣を涙の絵号

きぬ白也出川清書より

京の毒そうに立てれ絵

兵庫　暁鳴

所　卓流

仝

上井　夕吟

林堂　花竹

上井　一竹

ヨシイ　義母

吉原　長春

石ヶ峯　不至

良福寺　秀乃治

林堂　一葉軒

小寺　佗久

隠されぬ被戸矢の隙にお塗て　西辻　宗好

青毒の浪花にうつり面ぬせ　北条　園水

〆百一句　前句二十

○風俗ハゝかゝ也と同まて

大立

きまれるの支え御賀　御所町清書

め水に濁らぬ水乃面白さ　林堂　一元

釣姫乃蚊屋に蛍の入にさり　大坂玉造　扇舟

御所位にさうんなくとさおそう　下市　専由

水よきま里に売れて葬摘　条塲　九角

燦取をうんほも怖し鰒の汁　御所　随切

柴の戸に手馴し猿れとられて　同　不数

馬借りて坂の乃ハ僕をのせ　高田　前仙

寺入やいろは読しゝみを書　御所　竜梅

郭付みに足にをほ氷室守　同　不数

笑ふことてぞう直ちに

我が水ぬる身にちち次　御所　専由

同

同所清書

自由自在春の者

蛭の生虫影やゝ形破て

馬帽子の長閑八分出の花も見る

四如身や花の人孫の情うゝ

髪ゆゝハ独ハやゝ桜山

去運の遠ハほゝ初を立ぶせて

狂なく私ハ見てひ

孫冥の子う馬帽子かつく

女と扈従乃乳も乳ふ形き貝

上かゝ下うとそ伝ひそう

乃しゝ寿ル娘ハ声ル寿ゝく

むしくをめゝふ蚕敗雛港

太二清書ハ京都ゝ住居ゝ附也

同　河刃岡分清書

扨ゝ見ハ乃の付さ事

院糸ふ拂ハてかゝく寿ル衣

紺良ル宿ゆ高ゆ放ナ鳥

身ル冨ゝ一扱疎ゝ恵美須煮

世川　河刃ハ彼　五条　如海　粗工　御所　正高　道穂　竜水

稍原　所　契舟　竜梅　同　不数　中ノ糸　杏山　名栖　葛山

江刃山田　同弥吉　丙水　今井　水軒

珍敷首椀　ゑ孫　田　拙　栽

世抜ぬう恵和布　蒼ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

井ゆ　ゆ　拙女ゆて世ゆ　ゆ

ゆゆ乗ゆや人のゆ　ゆ

同　河刃山田清書

同の下ふゆゆ

綿織拙の乃拙引糸さぐき

庵壷ゆ移ゆ　ゆ

さゆゆ行れゆ

暖簾ふ同じ家ゆ　ゆ

高日の約ふ倦ゆ桑の

窓ゆゆ禁ゆ毒ゆ月ル筆

石ゆゆ別ゆて書乃紙ル

文車の中ふ楽ゆ

乃の紀ふ為て孫ん建軽今刃

指掃ハ雑喰寝ゆ内乃彩枕

下の越ゆ育ル蕊ル

同

同　河刃清書

小山　馬成　山田　雨木　同　坊城　玄廣　天象　ホソイト　晩松　山田　治長　小山　松下　宇陪　国行

井　包茂　ホソイト　乃勝

馬の上

篠酒よ小旅の名所を呑う城
物をいへども名めぬ白くし

追慕　竜水

男よ小あらで女乃うう安

西辻　宗好

美なる水宮を宮つ宮の

山田　吉方

月小和しけして来ぬ

川辺　下橋

春日　信一

意の幽霊ぬる

同　何外伝大清書

ん上ん和伝しく

義珍

ねつと鬼よう紙さ意れ甲乙

佐太　八ヤ

明日の天ぬ

多ぐんやかあさ夢ろ呼みなと紙

茨木　睡鴎

寝てみう起てもわうと

胡桃よ月代の

楽を美あして歌を傾城

天瀟　幽志

雛形う造る乗乃伸

文習

蚊帳の外小廣進乃紙

九太　珈凡

もハ半仕も

可雲

射乃矢代わうよ多のさ梅の実

堺　道久

紙通文よ妹背の中を交て

ぬ一時乃乃ぬ

呼生てみもしせ乃砂

同　山田清書

右中左を別わうと

山田　清岸

茶の井代水小大阪乃枝の紙

乃代日小ん乃う羽を嘆めて

笑ひけ伝ん乃

意の徒とうわが花代茶や

同　和列曲川清書

川まて来て同一本也

佛前の蠟燭乃ー木蝋燭

今下　宗弘

宇陀　言外

浩伝ん義うん人ち

新口　意拙

紅葉と伝佐未代中に松一木

伊ガ名弘　石子

篠竹小頻白物伝里代寺

曽我　岸凡

拂ぐる次中乃ぬ

ぬ乃ハ伝ち拭く

傘代宮

[illegible]

同　戸毛村清書

蚊一つも残らざりけり
蚊蕩し　邪見を悔ゆ　夜[illegible]中
疱瘡ハらくゝ　ゝゝハ　ゝゝの　呪詛て
猫乃ゝハ　寿ぬ　ゝゝ　約束て
[illegible]　[illegible]世の中　狐ゝく
柴の戸や　夜[illegible]　[illegible]宿暮
木の　卵　柿ハ　雀の　[illegible]
[illegible]ハ　合点の　[illegible]

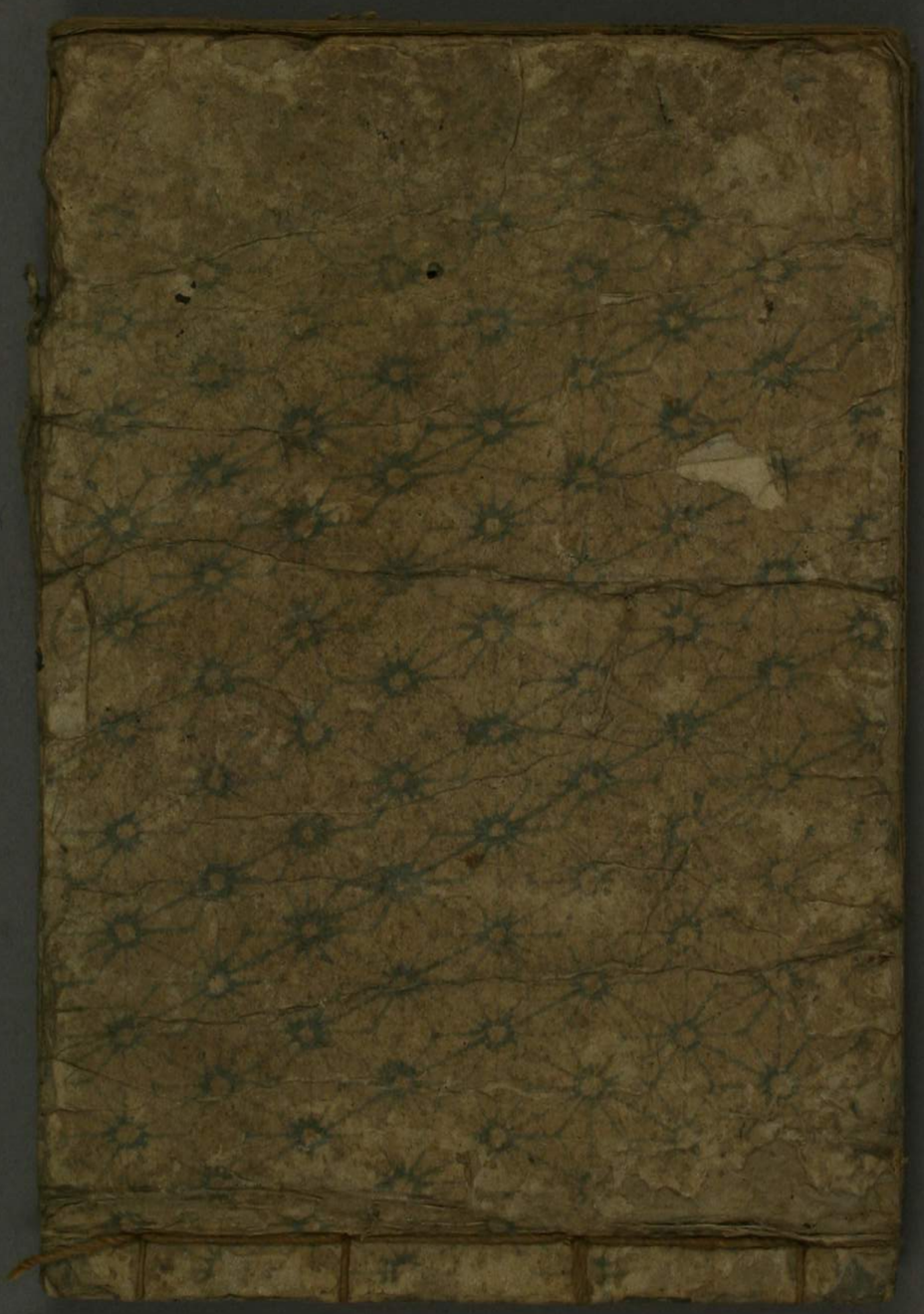
磨ゝ耳　ゝの　ゝ　[illegible]
[illegible]　[illegible]

同　御所町清書　八百比丘尼

林ト　一葉軒　戸毛
月枝　戸毛
鬼風　菖蒲
西禮
住川　三ツ木
竜水
金井　住川
鬼角　戸毛
月枝

秀俊　上市
市中　山田
弥吉　新口
老児　宇陀
言外

新板洒落合

一方歳示　こゝの尾
手歳示　正徳集洗
これて拍　邪法梅
こゝたゝこ　ひゝこ屋
こゝ[illegible]　八つ[illegible]
ゝゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]　竹の二筆
[illegible]

正月吉日
大坂堂島　[illegible]
[illegible]　村長[illegible]